

経営比較分析表（令和4年度決算）

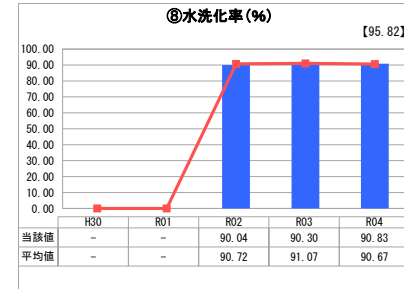
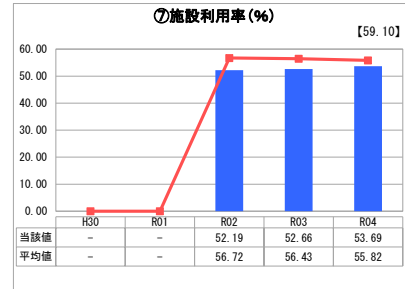
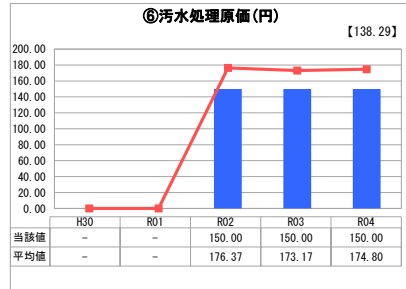
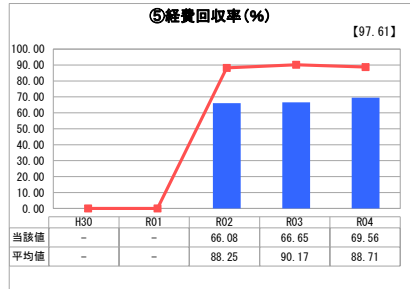
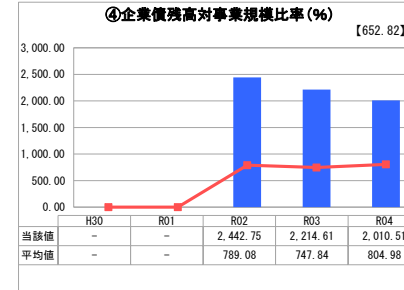
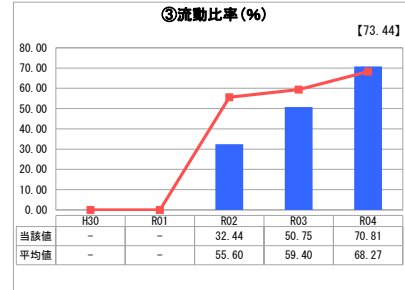
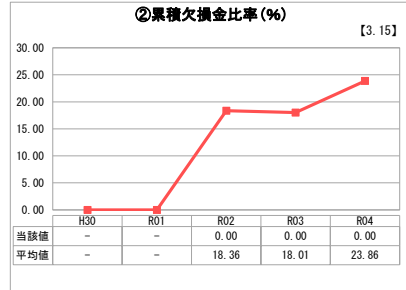
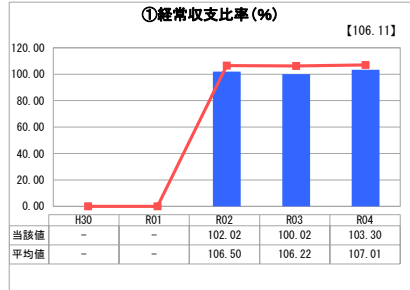
埼玉県 羽生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 ³ 当たり家庭料金(円)
-	65.05	36.67	80.89	2,310

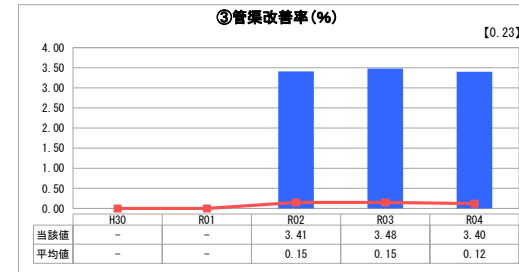
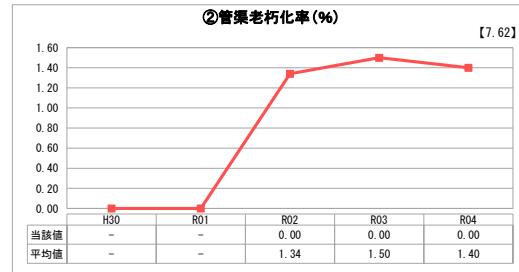
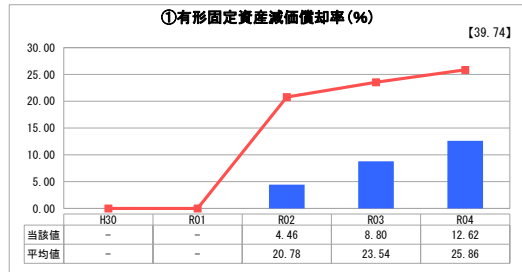
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
53,951	58.64	920.04
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
19,772	4.58	4,317.03

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
経常収支比率が100%を超えているため、経営の健全性は保たれている。
- ②累積欠損金比率
累積欠損金は発生していないため0%となっている。
- ③流動比率
過年度より比率は改善し、類似団体平均値を上回る結果となった。しかし未だ全国平均には届かず100%を大きく下回っている。企業債償還金が負債の大半を占めていることが要因であり、支払い能力の向上を目指し、内部留保資金の確保等の経営改善が必要である。
- ④企業債残高対事業規模比率
全国平均値、類似団体平均値を大きく上回っている。今後施設の改築更新事業などを計画的に進めることで企業債残高対事業規模比率の減少に努めていく。
- ⑤経費回収率
経費回収率は100%を大きく下回り、類似団体平均値と比べても19ポイント以上低い。これは本来使用料で賄うべき経費を回収できていないためであり、使用料の適正化について検討していく。
- ⑥汚水処理原価
150円を超える部分は、一般会計からの繰入金で補填されている。引き続き接続率の向上に努め、有収水量の増加による汚水処理原価の削減を目指す。
- ⑦施設利用率
全国平均値、類似団体平均値を下回っている。汚水処理に必要な施設規模を確保したうえで、施設の改修を行う必要がある。
- ⑧水洗化率
類似団体平均値は上回っているが、全国平均値は下回っている。経営健全化を図るためにも、普及促進活動を続けていき、水洗化率の向上に努めていく。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
全国平均値、類似団体平均値を下回っているが、これは令和2年に公営企業会計に移行したためである。
- ②管渠老朽化率
法定耐用年数を超えた管渠がないため、0%となっている。今後は法定耐用年数を超えた管渠が発生してくるため、ストックマネジメント計画に基づき、管渠の更新工事を進めていく。
- ③管渠改善率
毎年管渠の修繕を進めているため、平均よりも高い数値となっている。今後とも不明水を減少させるため、管渠等の調査、修繕を継続して進めていく。

全体総括

1. 経営の健全化・効率化
全国平均値、類似団体平均値と比較して、多くの指標で低い水準を示している。令和3年3月に策定した経営戦略に基づき、令和5年1月1日に使用料の改定を行ったが、経費回収率が100%に達していないため、更なる使用料の適正化に取り組み必要がある。
2. 老朽化の状況
限られた財源の中で処理場等の改築更新を行っていくためには、ストックマネジメント計画で老朽化の進展状況を考慮し、優先順位付けを行ったうえで、処理場等の改築更新を進めていく必要がある。また、道路地下に埋設された管渠の内側の状態を確認するためのカメラ調査や道路内にあるマンホールの点検・調査を行い、管渠等の改善を継続して進めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。